

わたしの散歩道前編



知らない向こうへ

海へ。海へ。波の音、潮の香り、はらかな向こう、知らない向こうにつながる水平線を見に行こう。坂の途中の小さな社に、「アート散歩」の看板を見つける。はらかな国の昔話につけられた絵が飾られていた。そして、たどたどしくも楽しそうにお話をかたってくれる美しい異国の人がいた。

石垣のちいさな坂道をのぼっていくとあたりは木々がしげり、小鳥が歌っている。小さな木の工房があった。サクラ、モミジ、ケヤキなど、さまざまな木が虫食いのまま、ひびのはいたまま生かされて、自然で繊細な器になっている。

坂道をくだると、毎年フェルトのマフラーを展示しているおうちが見えてきた。今年はどんな形のどんな色のかな？ 大胆できれいであったかなマフラーは町の人気者。明日はどこに行こうかな？ 知らない向こうへの扉がひらく、11月の散歩道。(M.S)



坂道をてくてく、丘をてくてく、
海の見える道をてくてく……
魚マークの看板を目印に、あちこちをてくてく。
みかんの香りに包まれて、
思いがけない発見に驚いて、てくてく。
さまざまな作品との出会い、
心温まる人との出会いが、待っている散歩。



るんるん
るんるん

思いがけない出会い

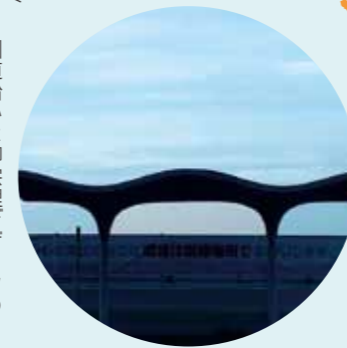
たまたま行った、観た、そして出会ったことが、その後の自分に大きな影響を与えるようなことは、誰にでも、多かれ少なかれあるだろう。

「こんにちは。おじゃまします」
「どうぞ、お入りください」

アート散歩の会場の多くは自宅の一角だ。外見からは特に変わった様子もない家の扉を開けると、その先に広がる世界は、様々な色や形で満たされている。

私もふだんはアトリエに並ぶ制作途中の作品、素材や道具を見せることはまずないが、「アート散歩」に参加している時期は特別だ。たずねて来る人はさまざま。たまたまアート散歩の地図を片手に会場をまわっていたら、ここに来ちゃった、ということもめずらしくない。しかしそれがきっかけで知らなかったことに興味を持つ。そんな出会いを願いながら今年も参加する。(H・N)

国道沿いに柳宗理デザインの
かもめシエルトーがあるバス停。
海の風景に溶け込んで素敵です。(K・M)



笑顔が行き交う文化の町

山が染まりはじめる11月。自然いっぱいの真鶴・湯河原に“文化”の花が開く。

「作品、昨年よりますます素晴らしくなったよね」。若者がいねいに作った木工作品に対して聞こえてくる賞賛の声に、思わず笑顔が浮かぶ。いっばしの応援団の気分。

長い間技を磨きつけてきた作品に出会うのも楽しみだし、たいせつに紡いでこられた暮らしを垣間見ることができるのもアート散歩ならではの。

ひとりひとりが、生き生きと仕事をし、技を磨き、日々の暮らしや趣味に喜びを見だし、それらを開放して見てもらったり、大事にうけとったり。そういう地域ってなんだかいいな、と思う。そして、その地域で暮らせる幸せをかみしめている。(Y.O)

びよんびよん
びよんびよん



あー、おなかペコペコ。
いただきます〜！(Y・T)



ふかふか
ふかふか